

設立から35年を迎えた宇佐市安心院町の歴史愛好団体で5月まで6年間、第8代会長を務め、顧問に就いた。

同町出身。東京の大学に進学し、千葉県柏市で小学校教諭になった。会は1989年に同じく元小学校教諭の父、誠さん(2002年に88歳で死去)が設立。古里で道路工事に伴う発掘調査の際、縄文時代後期の集落跡が見つかり、調査後は道路になったが、せめて

安心院縄文会顧問

ただひろ
林 禎紘さん 81

内にある謎の巨石群をまつる「米神山巨石祭」は、地元住民に引き継がれて3月で33回目になった。

会設立から30年と35年の節目に会長の重責を担い、「歴史に詳しい先輩方に助けられた」と感謝する。町内の史跡に設置してきた案内板は29か所になり、機関誌も35集を発行した。今後「ふる里を愛することはふる里を知る」をモットーに、会員約40人の活動を支えていく。(大石健一)

古里の歴史 後世に

歴史遺産を名称にした団体をつくって人々の記憶に残す狙いからだった。

自身は定年退職後、2006年に帰郷し、先輩会員に誘われて入会して18年、会長に就任した。地元の歴史について、「会に入ってから勉強してきた。安心院の歴史は、謎やロマンが多い」と魅力を語る。

会では、県内外にある縄文時代を含む様々な時代の史跡を探訪するほか、識者を招いた講演会も開催。町



地元の深見地区まちづくり協議会の会長も務める。安心院町の名所「仙の岩」周辺の草刈りをし、道沿いに花の苗も植えている。